例の文字色→ 「normal」クラス 「change」クラス 「one.ext」 「one.chg_zero.chg」	例		
〈calt〉	456	2100	10000
lookup c01 {sub @normal' by @change;} c01; 全部「change」クラスに置きかえる	345	1099	09999
lookup c02 {sub @change' @change by @normal;} c02; 1 桁目は「change」クラスのまま、他は「normal」クラスに置きかえる	455	2109	10009
lookup c11 {sub @normal' zero.chg by @change;} c11; 「zero.chg（見た目は 9）」の上の位が「normal」クラスだった場合、「change」クラスに置きかえる ※「zero」は「zero.chg（見た目は 9）」に置き換えられることで「9 大きい値」になっている。これを解決するために 1 つ上の位（の見た目）を「1 小さい値」にする。	↓	2199	10099
lookup c12 {sub @normal' zero.chg by @change;} c12; lookup c13 {sub @normal' zero.chg by @change;} c13; lookup c14 {sub @normal' zero.chg by @change;} c14; lookup c15 {sub @normal' zero.chg by @change;} c15; lookup c16 {sub @normal' zero.chg by @change;} c16; lookup c17 {sub @normal' zero.chg by @change;} c17; lookup c18 {sub @normal' zero.chg by @change;} c18; lookup c19 {sub @normal' zero.chg by @change;} c19; ※「c11」と同じ作業を繰り返す（3 桁なら「c12」まで、4 桁なら「c13」までで良い）。	↓	2099	09999
lookup c21 {sub @normal one.chg' by one.ext;} c21; 「one.chg（見た目は 0）」のうち、いちばん大きな桁でないものについては「one.ext（こちらも見た目は 0）」に置きかえる ※「one.chg（見た目は 0）」が存在するのは 1 の位か、もしくは「zero.chg」よりも 1 つ上の位。「one.chg」が連続することはない。この作業で、いちばん上の位の「one.chg」だけがそのままになり、他の「one.chg」は全て「one.ext」になる。	↓	2099	↓
〈rlig〉			
sub one.chg zero.chg by one.chg_zero.chg; 「one.chg（見た目は 0）」「zero.chg（見た目は 9）」と並んだ場合、合字グリフ「one.chg_zero.chg（見た目は 9）」に置き換える。	↓	↓	9999
	455	2099	9999